

書写通信

姫路工業大学
アメリカン
フットボール部
OB会報

TO OLD BLUE

2001 第5号 [新春号]

2001年 1月 1日
編集責任者 匠 宏之
兵庫県相生市双葉 3-2-4

秋季公式戦全日程終了 苦渋のシーズン1勝もあげれず

2000年秋季リーグ戦の全日程が11月4日姫路獨協戦を最後に終了しました。3部Aブロックの星取り表は以下の通りです。

	姫工	姫獨	鳥取	岡理	徳島	流科
姫工大 4位	●	●	△	●	●	
0勝4敗1分	13-14	9-19	0-0	6-14	0-12	
姫獨大 1位	○	○	○	○	△	
4勝0敗1分	14-13	15-0	25-0	10-6	6-6	
鳥取大 3位	○	●	○	●	△	
2勝2敗1分	19-9	0-15	19-0	0-14	7-7	
岡理大 4位	△	●	●	●	●	
0勝4敗1分	0-0	0-25	0-19	7-13	7-34	
徳島大 2位	○	●	○	○	●	
3勝2敗0分	14-6	6-10	14-0	13-7	13-21	
流科大 6位	○	△	△	○	○	
3勝0敗2分	12-0	6-6	7-7	13-7	21-13	

※上表では実際の勝敗を記していますが、今シーズン流通科学大学はオープン戦参加となっているため、勝敗に関係なく全て不戦敗扱いとなっています。

Div 3 - Aブロックで優勝した姫路獨協大学のその後の戦績を参考までお知らせします。

出場校決定戦

○姫路獨協大 15-14 ●神戸学院大(Div.3-B1位)
(11/18 大阪市長居球技場)

入替戦 (Div.2-3)

●姫路獨協大 13-16 ○神戸国際大(Div.2-B5位)
(12/3 阪急西宮球技場)

+++++ 2000年秋季公式全試合ショートコメント

+++++
OBのみなさん昨シーズンは応援および援助いただき有り難うございました。すでに試合後のeメール速報で各試合の結果はお知らせしていましたが、本誌でもう一度振り返ってみます。

☆リーグ戦第1戦 岡山理科大戦結果☆

9月15日 11:30 岡山県営球技場 曇のち雨

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
姫路工業大学	0	0	0	0	0
岡山理科大	0	0	0	0	0

途中雨が強くなったこともありこちらのパスは無い展開となり、岡理大守備は守りやすくなった。悪い癖であるエクステンジミスがショートヤードを残したねらい所です。自分から首が締めるようなことをしてしまう。反対に岡理大オフェンスはQBがブーツレグでのキープやプレーアクションパスを随所を出しフレッシュを更新する場面も。時間が結構残っている時に自陣で4thダウンギャブルを決めたりとムードを高めたまま4Q終盤まで工大ディフェンスを苦しめた。もし彼らにFGを決める能力があれば3-0で工大は破れていたかもしれない。

☆リーグ戦第2戦 徳島大学戦結果☆

9月23日 12:40 キックオフ 西宮球技場 曇り

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
姫路工業大学	7	7	0	0	14
徳島大学	0	6	0	0	6

2年生壺井がスタートQBを勤め、オーソドックスなプレーで組立てを計るが、結果的にはTDをあげたシリーズを除き、すべて3Playで終わりDownを更新できない試合となってしまった。徳島大学は姫工陣30yd付近4thDownでのギャブルを試み、WRへのコーナーパスによりTD。その直後RB安藤45ydの好リターンを見せ、ムードを変えられるかに見えたがその後が続かない。Diffenceも中央からのプレーは止めていたものの、オープンプレーにより大外から35ydのTDを奪われる。前半終了間際、QB壺井からのコーナーパスを、徳島大DBを抜き去っていたWR大畑がキャッチし、50ydとなるTDをもぎ取った。後半に入り、オープンプレーによりアジャストし始めたDiffenceは得点を許さなかった。最終シリーズ自陣20rdからの攻撃は、4Qから交代した4年生QB三島から放たれたロングパスに徳島大DBにキャッチされた。

☆リーグ戦第4戦 流通大学戦結果☆

10月9日 14:30 キックオフ 姫路獨協大学G雨

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
姫路工業大学	0	0	0	0	0
流通科学大学	6	0	0	6	12

豪雨の中早々から流科大に右オープンサイドから一気に70ydTDを奪われてしまった。しかし、その後姫工大は要所要所で流通大の攻撃を食い止める。攻撃は中央ダ

10yd付近まで攻め込んだが、FG失敗。ここで姫工大はWR大畑へのTDパスを成功させ7点を先制した。さらに第1Q終了間際に敵陣25ydからフィールドゴールで追加点を狙ったが、これに失敗。

第2Qに入り、ギャンプルを決められた後、一瞬気が抜けその直後にリードオプションで40ydとなるTDを許してしまった。

後半に入り自陣でボールをファンブル、そのボールを姫独大選手に奪われ、そのままエンドゾーンまで運ばれる。姫工大は大畑の好リターンで敵陣30ydから攻撃、スニークプレーで大外からエンドゾーンへボールを持ち込みT。ここで同点を狙ったTry For Pointでキックを失敗してしまった。第4Qに入り逆転へ

ドライブを続けるが、ファンブルで大きくロス、そして4thDownパントではボールをジャックルしている間に姫独大のラッシュにあい、さらにロス。姫独大に敵陣22ydから攻撃を謙譲してしまったが、3年生LB東山のロスタックル等でFGに追い込み、これを失敗においやり、最後の攻撃に逆転と今シーズンの全てを託した。が、ここで姫独大守備も優勝へ向けた意気込みを見せ、姫工大攻撃のゲインを許さず、試合終了のホイッスルがなってしまった。雨も上った後半もピンチを乗り切るものの自陣からでられない。自25yd付近からギャンプルが失敗、流通大のTEリバースに決定的となるTDを奪われてしまった。この後のキックオフで、WR大畑の50ydロングリターンが飛び出したがここまでとなった。

☆リーグ戦第4戦 鳥取大学戦結果☆

10月21日 11:00 キックオフ 伊丹スタジアム-センター 快晴

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
姫路工業大学	0	3	0	6	9
鳥取大学	7	0	0	12	19

1Qにパントのミスで2度自陣ゴールを背負う攻撃を受けてしまう。1度目は鳥大攻撃をかわしたが2度目はゴール前12ydからの攻撃で、理想通りのWRへのタイミングパスで先制されてしまった。

2Q陣地挽回を狙った鳥取大Offenceのロングパスを3年生FS炭崎が50yd付近でインターセプト、ここで4年生FB原田のダイブ、2年生TB安藤のブラストでドライブし、敵陣12ydまでボールを進めていった。4thDownでFGを選択、ここで2年生K熊谷の蹴ったボールはポストに弾かれながらも何とか成功し、3点を返した。

後半に入り、両者とも攻めあえぐ中、3Q終了間際から工大はパスがようやく決まり始めた。この流れから30ydゲインとなる中央ダイブも飛び出し敵陣15yd付近での4thDownギャンプルでは2年生QB坪井のスニークで1stDownを奪い、最後は3年生エースWR大畑への逆転TDパスが成功し、残り時間6分10秒。しかし次の鳥取大の攻撃が止まらず、残り時間3分30秒でプレイアクションパスを決められ再逆転TDを奪われた。なった。

イブ、大外からのスニークなどがようやく出始め、敵陣最終シリーズのOffenceは、最後の望みをかけたQB坪井から放たれたロングパスが鳥取大FSに奪い取られインターセプト、そのまま約30ydのリターンでTDとなってしまった。

11月4日 11:30キックオフ 西宮球技場 快晴

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
姫路工業大学	7	0	6	0	13
姫路独協大学	0	7	7	0	14

姫独大リターナーを青天させるDB大角の激しいタックルでプレーは始まり、主将LB今井が率いる守備陣がランもパスもシャットアウトする。姫独大のパントスナップがパンターの頭上を大きく超え、姫工大は敵陣26ydから攻撃という絶好の場面と

今シーズンの振り返っての反省

なぜ勝つことができなかったか？全ての試合を振り返ってみて「ミス」の多さは大きな要因でした。オフェンスではエクステンジミス、ファンブルが多発し最悪は自陣で相手に攻撃を渡す結果となったし、ターンオーバーにならなかったとしてもノーゲインであることから2つのダウンで10ydを取らなければならない状況に自分たちを追い詰めてしまうわけで非常に辛いビハインドを背負ってしまいます。最終戦の獨協戦でもようやくオフェンスが機能し互角にゲームを進めていた中で、勝敗の明暗を分けたのはファンブルでした。

ディフェンスではオープンプレー特にオプションに対する守備に不安定さを欠くことが多かった。オープンを止めるためのOLBを上げるとその裏にパスを投げられるという危険が付きまとう。その他、ディフェンスのミスではやはりタックルミスがあり、オープンフィールドほど当然被害は大きくなります。

以上のように戦術・戦略以前のフットボールとしての基本的なことができなくて負けるべくして負けた感が強いです。この原因は焦りだったと思います。

客観的に見て優勝した一昨年より戦力が落ちた中、昨チームより上の2部昇格という大きな目標の前に全選手が飛躍的に成長しなければならないのに、春シーズンは思うような結果がでなかった。個人のレベルが上がらない分を攻守システムでカバーしようとしたことが、結果として足元（基本）を固めることなく、多くの課題を同時に手掛けることとなり、それらが中途半端に終わったような気がします。

選手達のこのような焦りを客観的にチームを見ているコーチ陣が早期に修正すべきでしたがシーズン初戦を引き分けで終わったときに、学生コーチが中心となり建て直し着手しましたが、後手後手となりただ為すすべを無くしてしまいました。

新チームでは「急がば回れ」の精神で個人のレベルをまず上げることが選手、コーチの間で確認されています。

昔の俺、今の俺

今回は宮崎さんからの紹介で高濱 尚敬さん、宮本運さんからの紹介で服部 俊郎さんの登場です。



宮崎先輩、こんにちは。こんなに早くお声がかかるとは思っていませんでした。年月の流れは早いもので、最初に先輩と姫工大グランド（まだ姫路西高横に大学がありました）横の部室でお目にかかってからはや30年以上が経っています。

私は、宮崎先輩の1年後輩で42年電気工学科入学の高濱といいです。姫工大アメリカンフットボール部はその前年に同好会としてスタートしましたが、私達の入部で最低必要人数の11名を越え、対外試合など部としての活動を開始しました。

現役時代のポジションは、ガード・タックルの掛持ちでその頃は常識の攻守交代無しのフル出場でした。当時の思い出では、岐阜高山での最初の合宿のことを鮮明に覚えています。まだまだ素直な新入部員で、初日から思いっきり飛ばして翌日からキッチリばててしまい、階段の上り下りも足がつってままならないありさまとなり、合宿が早く終わることだけを祈りつづける毎日でした。もちろん、2年目からはコツをつかみ（手を抜く方法を会得して）すいすいと合宿を乗りきるようになってました。自分が4年間の現役生活で怪我らしい怪我をせずに済んだのは、このときつかんだコツを合宿・練習

そしてゲームとフルに活用したおかげです。私が手を抜いたあおりは、QB/RBなどおいしいポジションを独占していた先輩達がスクリメージ後ろで、青天を食らうという形で表われてましたけど。やはりフットボールはラインが、それもまじめなラインが大切です。

大学卒業後、関西協会の古川さん（当時は審判協会の理事をされてました）に声をかけられ、46年から関西協会の審判員として現在までフットボールに関わってきました。現在も年間30ゲーム前後を、週末どこかのグランドで走り回ってます。選手の動きについていける体力を少しでも長く保てる様、健康・体力維持に気を使ったりしますので、結果としてフットボールと関わり続けて良かったなと思ってます。

ここで自慢話をさせてもらいます。少し古くなりますが、スーパーボウル観戦です。写真はその時のシートにかけてあったクッションを持ち帰った物です。'88年1月31日のスパーボウルXXIII、サンジェゴ市ジャックマーフィスタジアムのレッドスキングスvsブロンコスゲームをこの目で見てきました。ブロンコスのQBはご存知J・エ

ルウェイ、レッドスキングスは黒人QBとしては初のスーパー・ボウルスターターである事が話題となっていたD・ウィリアムスで、結果は大差でレッドスキングスが勝ちました。ゲームとしては、大味なゲームでしたがボウルゲームの雰囲気満載で忘れられない一日でした。さて自慢というのは、このフットボウル観戦復讐の航空券、チケットその他一切合財自己負担Oだったことです……！詳しい経緯はまたお会いした機会に。今年のブルーライナーズは、残念な結果に終わってしまいましたが他チームとの実力差は感じていませんでした。どのゲームを見ても逆の結果になっていて少しもおかしくないと思います。来シーズンの巻き返しを期待しています。

今回は、同期のエースランニングバックの上田正博さんに登場をお願いします。



51年卒業の服部です。

宮本君も仕事が忙しそうなので何よりです。（先日10数年ぶりに職場に会いに行きました。）職場が近いにも関わらず、なかなか会えませんね。また、OB会にも久しくご無沙汰し、申し訳ありません。陸上競技場でオープン戦を開催して以来と思います。それも、怪我のために出場できませんでしたが…。

さて、話を昭和48年入学に戻します。私の高校の同級生（体重120kgでした）が入部の勧誘を受けたものの、断りに行くのに付いていったところ、付き添いの私（体重60kg）が入部させられてしまいました。辛い合宿の度に体重とスピードが増え、だんだんアメリカンが好きになってきました。

また、歴代のキャプテン（清水・花井・福岡・宮本各氏）をはじめ、良いチームメイトに恵まれ、厳しい中にも和気あいあいとした家庭的な雰囲気の中でチームに馴染むことが出来ました。2回生からは、試合の度に勝つ味も覚えますアメリカンが好きになってしまいました。バックスがTからIフォーメーションへの変革期、研究も本からビデオへと移っていった時期です。正月のボウルゲームのTV放映がはじまったのもこの頃だったように思います。

あつというまの4年間でしたが、特に忘れられないのは神戸学院大学との死闘です。この一戦に勝てば優勝という試合で、同点で迎えた第4クォーター、ぶっこみ20分(?)のクォーターが1時間にも感じられたことです。実際ラスト4分のコールから10分もプレイしていたと聞かされて死ぬほど疲れたこと今でも良く覚えています。

その後、同期で主力の3人（山田・福堀・小野）が抜けたにも関わらずよく頑張ったと思います。結局この試合は負けましたが、以後常に優勝を狙える位置にいたように思います。本当に楽しく充実した4年間でした。

近況ですが、自宅は生まれてこのかた、（新婚の3年間を除いて）姫路を離れたことはありません。勤務は神戸の三菱重工内の協力会社で24年間変わっていません。

姫路市の地元では校区の体育指導員をしています。パパさんソフトボールやママさんバレーボール、バドミントン、卓球など地域の生活体育・生涯スポーツのお世話をしています。そのため、平日・休日を問わず忙しく走り回っています。また、土日の夜はPTAコーラスの活動をしています。身体を動かすこと、声を出すことは、4年間のアメリカンで培われた賜物と密かに自負しています。

最後に、現役の方々には“結果を恐れず、いろいろトライしよう！”と言いたい。練習中はもちろん、試合中でもいろいろ考えながらプレイすれば結果は後から付いてくる。これはあるキャプテン？が言った言葉です。頑張ってください。

それでは、今回は原稿をそのあるキャプテン福岡さんをお願い致します。

OB会関連の取り組みと評価

昨シーズンのOB会およびコーチングスタッフ活動の一部を紹介し、その評価を行ってみたいと思います。

①筋肉塾への選手派遣

最新のウェイトトレーニング技術を学びチームのトレーナーの核とすべく選手2名を1ヶ月大阪の筋肉塾に派遣しました（講習費と交通費をOB会費より供出頂きました）。得るものは多かったですが、実際に他の選手の負傷は減っておらずチーム全体には波及するまでには至っていません。チーム運営の手法でQCシステム（会社でいう小集団活動のスポーツチーム版です）も学んで来ており、これはチームに定着しつつあります。

②高濱審判員によるルール説明会

夏に2回、工大OBの審判員である高濱さんがルール講習会を行いました。最新の改正事項や春の工大の練習試合で気づかれた点など講義形式でレクチャーしていただきました。選手達は今まで気にしていなかったが非常に大事なことを学べたと大変好評でした。

③坂野コーチの招聘

シーズン前より甲南大学、全日空でQBを務められた坂野氏を金谷ヘッドコーチの紹介でコーチとして招聘しました。オフenseだけでなくチーム全体のアドバイザーとして活躍しています。（坂野コーチは奈良県からの参加のため交通費の一部をOB会費より負担させて頂きました。）

＊ ＊ 詳細の会計報告は次号及びOB戦で行います。 ＊ ＊

旧チーム幹部からのお礼

主将 今井 秀典

今シーズンは例年になくOBの方々の援助を頂きながら情けない結果に終わり、申し訳ありません。すでにチームは2部昇格を目指し、一から活動し始めています。どうぞ来シーズンもご声援宜しくお願いします。一年間本当に有難うございました。

副将 毛利 章宏

OBのみなさん、今シーズンはどうもお疲れさまでした。このような結果に終わってしまい自分の力不足を痛感しました。新四回生はこの経験を生かして勝てるチーム作りをしていって下さい。コーチ、OBの方本当に一年間ありがとうございました。

副将 竹村 周平

今シーズンを振り返ってみると、最後まで「たら」「れば」をなくす事が出来ず、勝つ事の難しさに気付くのが遅かったです。後輩達には、小さなミスがどのような結果を産むか身にしみて分かったと思います。最後になりましたが、学生コーチ・OBの皆様この一年、ご声援等ありがとうございました。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

——ホームページを一新します——

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

これまで川原崎さんのご厚意でブルーライナーズのホームページを立ち上げていただき試合結果やOB同士の情報交換の場として利用してきました。今回ホームページの管理を川原崎さんから引き継ぎ大学のホームページ内に移植することになりました。管理の方は選手が行うこととなります。

この背景として新入部員の勧誘に対して有効に使うという意図があります。最近の受験生は志望する大学のホームページをインターネットでチェックするのは当然で、クラブ活動のサイトもよく見ているとことです。そうすると魅力的なホームページを作っておけば、おのずとPRとなり入学前から我がブルーライナーズを知るチャンスが生まれます。

現在新ホームページは未来のブルーライナーズ選手を発掘すべく工事中です。完成次第お知らせします。

（当面、旧ホームページも存続しております）

本誌郵送便を御覧で新しくEメールアドレスを入手された方がいましたら htakumi@d2.dion.ne.jp（匠のeメールアドレス）までご連絡ください。

新チーム幹部からのごあいさつ

主将 稲原 正敏

アメリカンフットボールと出会い9年目に当たる今シーズン、ブルーライナーズの主将を務めさせていただくにあたりプレーヤーとしてはもちろん、経験を生かして指導者としても役立つよう頑張ります。

副将 梅名 泰史

今季副将を務めさせていただく、梅名泰史です。今年4年間の集大成として悔いの残らないようにし、今まで思っていたことをすべて実現していきたいと思います。そしてみんなで決めた「革命」というスローガンを現実のものとして、ブルーライナーズの歴史に残るチームにしていきたいと思ひます。

副将 炭崎 主吉

副将になりました炭崎です。4回生、最後のシーズンを悔いの残らないよう全力で頑張りたいと思っています。主将稲原を筆頭にチーム一丸となって二部昇格を目指して努力していきます。

編集後記

◇ シーズンの結果に鑑み反省内容ばかりの本号でしたが、もう一つ昨シーズンからの不安材料があります。部員の減少です。

◇ ここ数年上位進出の要因となっていたのは部員数の増加にもあります。理学部、環境学部が増設され総合大学化したことにより、学生の絶対数が増えたことが部員の増加を促し、一昨年のチームではマネージャーを含めると50人を越える所帯となりました。

◇ しかし、昨年の新入部員はわずか3名の内シーズン途中で2名の退部者が出て新入部員は1名しか残っていない事態になっています。この結果今春のシーズンは選手18名で戦って行くしかありません。もちろん昨年も勧誘活動を展開しましたが、選手の口々から洩れるのは「新入学生のタイプが変わってきている。運動部系に入るような子がいない。」ということ（言い訳にも聞こえますが：みなさんの回りにいる今時の若い人はどうですか？）。

◇ 学生の質の変化に対応して昨年の勧誘方法は自主性に促すソフト路線で行いましたが、これが裏目に出たようです。入学前からのPRが重要と考え今回チームのホームページを大学内に移動します。今年は硬軟使い分けて勧誘する予定で新入部員数の目標を15名としました。春のOB戦では大勢の新入部員を紹介できるようにしたいです。（匠）